

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 8 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Women who maintain optimal cognitive function into old age. 良好な認知機能を保つ高齢女性について	
執筆者	
Barnes DE, Cauley JA, Lui LY, Fink HA, McCulloch C, Stone KL, Yaffe K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Am Geriatr Soc. 2007 Feb;55(2):259-64.	
キーワード	
認知機能低下、痴呆、危険因子、疫学	
要 旨	
<p>目的： 年を重ねても良好な認知機能を維持する高齢女性と、通常に加齢過程の中で認知機能低下を経験する高齢女性でどのような違いがあるか調べた。</p> <p>方法： 対象は9,704人の女性であり、Study of Osteoporotic Fractures (骨粗鬆症骨折調査)を用いた。デザインは前向きコホート研究である。認知機能検査 modified Mini-Mental State Examination (mMMSE)をベースライン時と6年、8年、10年、15年後に実施した。検査結果に基づき、点数が上昇または横ばいの者を認知機能維持群、点数が低下しているが下位三分の一には入らない者を軽度認知機能低下群、点数が低下して下位三分の一になった者を高度認知機能低下群とした。ロジスティック回帰分析(ステップワイズ法)により認知機能を保つ者と認知機能低下者を分ける特徴的な因子を調べた。</p> <p>結果： ベースライン時の平均年齢は72歳で追跡終了時の平均年齢は85歳であった。良好な認知機能を維持していた者は9%、軽度の認知機能低下があった者は58%、高度な認知機能低下があった者は33%であった。ほとんどの要因が3つの群で異なる傾向があった。主な交絡因子を調整し、認知機能維持群と軽度認知機能低下群を比較すると認知機能が維持されるオッズ比(OR)と95%信頼区間(95%CI)はそれぞれ、糖尿病が無い1.9(95%CI=1.2-2.9)、高血圧が無い1.2(95%CI=1.0-1.4)、たばこを吸わない1.7(95%CI=1.3-2.3)、適量飲酒1.2(95%CI=1.1-1.5)、日常の身体活動に困難がない1.4(95%CI=1.1-1.7)、社会参加制約が無い1.2(95%CI=1.0-1.4)であった。</p> <p>結論： 約10%の高齢女性が年を重ねても良好な認知機能を維持している。認知機能を維持している群はそうでない群に比して生活習慣病等の疾病が少ない傾向にあり、日常の身体活動の困難性が少なく、社交性があり、健康的な生活習慣がある傾向が見られた。</p>	